



平成 24 年 10 月 11 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 免 疫 生 物 研 究 所  
(コード番号：4570)  
本店所在地 群馬県藤岡市大字東田 1091 番地 1  
代 表 者 代表取締役社長 清 藤 勉  
問 合 せ 先 取締役経営企画室長 木 下 憲 明  
電 話 番 号 0274-22-2889 (代表)  
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

### 急性心筋梗塞の新規バイオマーカーの発見について（\*1）

当社は、独立行政法人理化学研究所基幹研究所・システム糖鎖研究グループ・疾患糖鎖研究チーム（北爪しのぶ副チームリーダーら）および福島県立医科大学循環器内科（竹石恭知教授ら）との共同開発により、血管内皮細胞に発現するアミロイド前駆体タンパク質 770（以下「APP 770」という）が、急性心筋梗塞の早期診断マーカーになる得ることを発見いたしましたのでお知らせいたします。

#### 【概要】

当社は、平成 23 年 11 月 10 日に既に発表しておりますように、APP 770 を特異的に測定出来る ELISA キットを開発し販売を開始しております。

研究グループは、本キットを用いて、APP 770 が血管内皮細胞の炎症によって増加すること、血小板にも豊富に存在し、活性化した血小板からも放出されることを明らかにしました。さらに、脳脊髄液中には主に神経細胞由来の APP 695 が含まれる一方で、血液中では主に APP 770 が含まれることが分かりました。そこで、血管内皮障害をきっかけとする疾患に焦点を絞って解析を進めた結果、急性冠症候群の患者では血漿中の APP 770 が高いことを突き止めました。急性冠症候群は、血管内皮障害や血小板の活性化を引き金として急性心筋虚血を発症する症候群であり、臨床現場では急性心筋梗塞へ移行する確率の高い患者を見分けることが求められています。今回見いだした血漿中の APP 770 は、従来の心筋梗塞マーカーより先に増加することから、急性冠症候群の早期診断マーカーとなることが期待できます。

なお、本研究成果は、米国の科学雑誌『Journal of Biological Chemistry』（12 月号）に掲載されるに先立ち、オンライン版(10 月 2 日、日本時間 10 月 3 日付)に掲載されましたので、併せてお知らせいたします。

以上

#### 【ご参考】

##### \*1. 研究成果の詳細報告について

急性心筋梗塞の新規バイオマーカーを発見（－従来の心筋梗塞マーカーに比べて早期診断が可能に－）として、下記に詳細が示されております。

<http://www.riken.jp/r-world/research/results/2012/121011/index.html>